

第31号

発行日
2021. 4. 16

Super Highway

JR東労組バス関東本部



JR東労組ホームページ

21春闘に対する見解を发出!

21春闘に対するJRバス関東本部見解

JR東労組バス関東本部21春闘を最後まで支えていただいた、全組合員と家族の皆さんに感謝申し上げます。

JRバス関東本部は、2021JR総連春闘として「2021年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」を行い、「雇用確保」「定昇確保」「ベア要求」を掲げ、職場現実と組合員の切実な声を受け、最後まで精力的に交渉を行ってきた。しかし、3月29日の第3回交渉で示された会社回答は「ベアゼロ」に留まらず、4分の2での定期昇給実施という、会社発足以来初の定期昇給にまで踏み込んだ内容であった。組合員の「労働実感」「生活実感」に加え、安全第一としコロナ禍で高まっている労働力を踏まえた要求からはかけ離れた回答に怒りを覚え、納得感に欠ける回答に対し、改めて、バス職場で働く組合員の声を受け止めるべきと強く訴え、席上妥結はせず回答を持ち帰り、緊急代表者会議を開催した。

会社回答に対し、組合員からは「親会社そのままの乾いた回答だ」「バスの組合員の切実な現実を親身になって考えていない」など当然ながら多くの怒りの声があげられた。その多くの理由は、本体とバスの労働実感・生活実感の違いや、賃金水準、賃金制度、定昇額などが違うにも関わらず、本体と同様と言える回答だからである。また、第3回の交渉の席ではジェイアールバス関東の独自性・独立性が極めて薄いと指摘してきたが、今後、親会社からの貸付制度を活用するとなれば、更にジェイアールバス関東としての独自性・独立性が薄くなり、バス職場の現実や組合員の切実な声が反映されなくなっていくのではないかと危機感を覚えた。従って、職場の力で組合員の現実や課題を把握し、具体的に会社に提起し、問題の解決や改善等を求める運動を強化しなければならない事を一致してきた。

今春闘は、昨年2月の組織分裂を乗り越え「新生JRバス関東本部」として、厳しいコロナ禍の状況の中、職場からの激励を受け、最後まで精力的に交渉に臨んできた。しかし、会社の頑なな姿勢を変える事は出来なかった。その組織現実や、経営状況、春闘情勢、そして何よりも組合員の雇用と利益を守り、家族を守るために今後どうすべきか、JRバス関東本部内で喧々諤々の議論を行ってきた。そして、JRバス関東本部の問題意識と今後の考えについて分会代表者との議論を経て、苦渋の判断であったが3月31日に妥結した。

JRバス関東本部は、4月14日の第4回分会代表者会議で「21春闘総括」と「今後のたたかい」について職場から出された本音の意見を、改めて真摯に受け止める。そして、会議を一つの節目とし、①春闘報告会を全分会で開催し、夏季手当要求実現に向けた声を集約する②コロナ禍での職場の変化に対する業務課題・職場環境改善に向けて、7月の定期委員会前後の取り組みをつくり出す闘いを具現化していく。

今春闘において「社員の安定的な社会生活の実現のためにも、今後も雇用の維持を大前提として行く考え」との会社回答を引き出し協約化できたものの、要求内容に対する会社の回答や、組合員の切実な声に応え切れなかった現実を踏まえれば、敗北と言わざるを得ない。しかし、組織問題を乗り越え、厳しい21春闘を本音の議論や、春闘学習会などにより自らの要求に高め組織の強化に繋げてきたこと。そしてバス東京分会、バス土浦分会での再加入の取り組みなどの職場運動に学び教訓とし、労働条件・環境の維持・向上のために組織強化・拡大に向けて運動を推し進める決意である。

私たちは今春闘の悔しさを忘れない!怒りと悔しさと危機感をバネに、組合員の「職場と仕事と生活を守る」ために次なる闘いをつくり出そうではないか!

以上、見解とする。

2021年4月16日
東日本旅客鉄道労働組合
JRバス関東本部

怒りと悔しさをバネに、
次なるたたかいをつくり出そう!